

ごあいさつ

京都府では、平成 20 年 7 月にいわゆる「ふるさと納税」制度を利用し、府内に所在する歴史的建造物の保存、修理や防災対策など「文化財保護」にその用途を限定する全国で唯一の「文化財を守り伝える京都府基金」を設置しました。それから 10 年が経過し、これまでの御寄附は 2 千 8 百件を超え、総額 1 億 7 千万円余りとなりました。全国の皆様方から御厚志を賜り、改めて心からお礼申し上げます。

また、この基金を利用し、平成 21 年度から 29 年度までの 9 年間で 192 件、総額 1 億 5 千万円余りを文化財保護のため支出しており、文化財を所有する方々から感謝のお言葉を頂戴しているところです。

さて、今年は地震や台風などの自然災害が相次ぎ、文化財も甚大な被害を受けました。京都の宝である文化財を守るため、緊急の復旧支援を行いました。まだまだ支援を必要とする文化財があります。文化財を守り、次代に引き継いでいくために、今後は保存修理とともに、防災対策にも力を入れてまいりたいと考えております。

これらの取組ができるのも、これまで京都の文化を大切に守り伝えてきた多くの方々、また京都の文化を愛する方々の御理解・御協力の賜物であると考えております。今後とも皆様方と一緒に京都の文化・文化財の保護に尽力してまいりますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。



平成 30 年 1 2 月

京都府知事 西脇 隆俊

『文化財通信』表紙の「常磐色」と「若菜色」

常磐色

この『文化財通信』表紙の題字には「常磐色」（濃い緑）を使用しています。『源氏物語』で、光源氏は、六条御息所を野宮に訪ね、彼女に対する変わらぬ恋心を、永久不変の樹木の緑に例えて、「常磐色」と言っています（賢木巻）。また、表紙の背景は「若菜色」（淡いうぐいす色）を用いました。同じく『源氏物語』で、光源氏の 40 歳の祝いの席で、養女の玉鬘が若菜を差し出した（若菜巻）ことにちなんで、このよううぐいす色を用いました。永遠の「常磐」と寿ぐ「若菜」に文化財の保護と継承の願いを託したものです。

若菜色